

事務 事業名		コード1	1465	商業活性化推進事業	課	商工観光課					
		コード2			所屬班	商業振興班					
					電話番号	62-5874	内線	27			
政策 体系	基本方針	5	活力と躍動感に満ちたまちづくり		予算	会計			款	項	目
	施策	3	商業の振興		科目	一般会計			07	01	02
	施策の展開	2	商業活動の支援		根拠	旭市補助金等交付規則、旭市商店街等施設及び景観整備事業補助金交付要綱 旭市商店街等活性化事業補助金交付要綱、旭市商工業後継者育成事業補助					
	基本事業	309	商業活性化活動への支援		法令						

1 現状把握(Do)

(1)事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるように記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☐ 平成 年度～ ☒ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全体像を記述⇒	・商店街等が実施するイベント事業や景観整備事業、或いは商工会を通じたプレミアム商品券発行事業等へ助成することで、商業の活性化を図る。 【メニュー(主なもの)】 ・イベント等事業 ・景観整備事業 ・プレミアム商品券発行事業 ・商業振興連合会運営費助成 ・スターライトファンタジー事業 ・商工業後継者育成事業 【対象者】 商店街 商店街等 商工会 商工会 商工会 商工業者 【補助率】 1/2以内 30万円限度 1/2以内 50万円限度 プレミアム (10%上乗せ)分 1,400千円 1/2以内 20万円限度 【内容】 商店街実施イベント等への助成事業 街路灯設置等 商品券(1セット11千円分を10千円で販売)の付加部分の助成 プレミアム商品券発行に係る事務費の助成 イルミネーションやイベント事業等 視察や研修会等 【業務の流れ】 補助金申請団体より申請書受付、内容の審査、交付決定。事業終了後、実績報告書の受付、審査、交付額の確定。

(2)トータルコスト

① 事業費の内訳(費目等)	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
負担金及び交付金15,406,000 【内訳】商店街等への交付額 2,373,000 商工会への交付額 13,033,000	事業費内訳						
	財源内訳						
	国庫支出金	千円					
	都道府県支出金	千円					
	地方債	千円					
	その他	千円					
	一般財源	千円	16,081	17,216	15,406	23,530	
	事業費計(A)	千円	16,081	17,216	15,406	23,530	0
② 延べ業務時間の内訳	人件費						
各補助金の申請受付、審査、通知等 10時間/件×約10件	正規職員従事人数	人	0.05	0.05	0.05	0.05	
	延べ業務時間	時間	100	100	100	100	
	人件費計(B)	千円	380	380	380	380	0
	トータルコスト(A)+(B)	千円	16,461	17,596	15,786	23,910	0

(3)事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
23年度実績(23年度に行った主な活動) ・商店街実施のイベント事業助成 ・景観整備事業助成 ・プレミアム付共通商品券発行事業への助成 ・旭市商業振興連合会運営費の助成 ほか	ア イベント実施商店街数		3	4	5	5		
24年度計画(24年度に計画している主な活動) ・商店街実施のイベント事業・景観整備事業への助成・プレミアム付共通商品券発行事業への助成・旭市商業振興連合会運営費の助成・スターライトファンタジー事業への助成・商工業後継者育成事業への助成 ほか	イ プレミアム商品券発行部数	セット	32,000	12,000	22,000	18,000		
	ウ 景観整備事業実施団体数	団体	4	4	4	5		
② 対象(誰、何を対象にしているのか)	⑥ 対象指標名	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
1. イベント事業:市民 2. 景観整備事業:商店街 3. プレミアム商品券:市民、事業者	ア 商店街数		14	14	14	14		
	イ 商工会員数	人	553	546	527	527		
③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
1. イベント事業:市民がイベントに参加できる 2. 景観整備事業:商店街の景観が保たれる 3. プレミアム商品券:市民が10%得をした買い物ができる、そして事業者側も購買者数が増加する。	ア イベント入込者数	人	—	—	—	—		
	イ プレミアム付共通商品券換金率	%	93.76	95.05	96.58	98.0		
④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか	⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
活力あるまちづくり、地域経済の活性化	ア 中心市街地来客者数	人	—	—	—	—		
	イ 年間商品販売額	円	—	—	—	—		

(4)事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か?どんな経緯で始まったか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか?開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか?	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
プレミアム付共通商品券については合併記念として販売開始。	商店数減少。プレミアム付共通商品券については、発行数が増加している。	プレミアム付共通商品券については購入者は多く、満足度も高い。商店街のソフト事業に対する助成も毎年5組ほど要望がある。

事務事業名	商業活性化推進事業	課名	商工観光課	班名	商業振興班
-------	-----------	----	-------	----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 結びついている ⇒【理由】 スターライトファンタジー事業について、本来の目的である商業活性化には結びついていない
	② 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象者を限定することはできないため
	③ 行政関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】 スターライトファンタジー事業について、本来の目的である商業活性化に結びついていないため、このまま補助金を投入するかどうかは見直しの余地あり
有効性 評価	④ 成果の現状水準 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】 プレミアム付共通商品券の発行数については近隣市より多いが、地域経済の活性化に結びついているかどうかは疑問点が残る スターライトファンタジー事業については、規模、開催場所、来場者数から見て、商業活性化に結びついていない
	⑤ 成果の向上余地 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するとうか？	☐ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☒ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】 スターライトファンタジー事業については、実施場所を変更したり、商店街等が協力し、商業活性化に結びつくようなイベント等を考えることによって成果向上の見込みはある。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他（民間・国県を含む）に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にはどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある ↳ (1) 事務事業名：() (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☐ 連携ができる ⇒【理由】 ☐ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業はない ☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地（表面トータルコストの事業費部分） 事業費を削減できないか？（経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど）	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 スターライトファンタジー事業については、商店街等が協力的に参加してくれれば、事業費を削減できる。 プレミアム商品券については、発行数を削減することで、事業費も削減できる
	⑧ 人件費の削減余地（表面トータルコストの人件費部分） やり方の工夫（業務プロセスの改善など）や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 補助金交付の手続きが変わらない限り削減の余地は無い
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 公平・公正である ⇒【理由】 プレミアム付共通商品券は対象店舗に限られるので、市内事業者の公平性が欠ける

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ④ 公平性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	商業の活性化を図る上で必要な事は、当事者である商人の意識改革が不可欠と思われる。「街おこし」等を考え実践する商業人の育成を本事業を行う中で積極的に実践する事が必要と思われる。 スターライトファンタジーなどのイベントに地元商店街が積極的に協力し、一丸となって商店街を活性化をするという意識が必要である。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可) ※2～3年後を目処にした方向性	(3) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)
☐ 目的再設定 ☒ 行政関与の見直し ☒ 事業のやり方改善による成果向上 ☐ 事業統廃合・連携(関連事業：) ☒ 事業のやり方改善による事業費削減 ☐ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減 ☒ 受益機会の適正化 ☐ 費用負担の適正化 ☐ 廃止・休止	
(2) 改革改善案について ※いつまでに、なにを、どうするのか？	
① 24年度から、スターライトファンタジー事業を本来の商業活性化に結びつける。 ② ③ ④	
(4) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策	
① 商店街等の協力。実施場所を商店街近くに変えて、商店街等に協力を呼びかける。 ② ③ ④	